

3. 御堂筋周辺地区の整備・事業の取組状況

■ 社会実験の実施と整備実施・制度導入

- 「御堂筋将来ビジョン」に基づき、交通処理やにぎわい創出、公民連携手法等を検証する社会実験等を実施している。
- 交通処理・側道歩行者空間化の検証を主とした社会実験では、モデル区間での道路のあり方の検証や、側道閉鎖時の交差点での交通処理法や荷捌き需要等の課題を検証したうえで、本整備（側道歩道空間化）を進めている。
- 公民連携・空間の利活用の検証を主とした社会実験では、民間の創意工夫を活用して歩行者にとって快適で楽しめる空間の形成、公民連携によるにぎわい創出の促進をめざしている。

【交通処理・側道歩行者空間化の検証を主とした社会実験】

平成25年度 御堂筋側道閉鎖社会実験

- 御堂筋側道を閉鎖し、歩行者空間を創出したときの交通影響等を検証する社会実験。

平成26年度 御堂筋にぎわい創出社会実験

- 側道空間を活用したにぎわい創出のニーズや課題等を検証する社会実験。

平成27～28年度 御堂筋の道路空間再編に向けたモデル整備

- 御堂筋全体の道路空間再編のイメージを視覚化し、歩行者・自転車通行の安全性や快適性等の道路空間のあり方の検証につなげていくことを目的として、千日前駅以南の東御堂地区においてモデル整備を実施。

平成30年度 御堂筋側道閉鎖社会実験

- 側道の歩行者空間化を進めていくうえで、側道を閉鎖することによる周辺交差点での交通処理が公平、荷捌き需要等の課題を検証するための社会実験を実施。

実施期間	平成30年10月9日（火曜日）から16日22日（月曜日）
実施時間帯	24時間
実施区間	通堂橋北詰から難波西口交差点付近の約0.4キロメートル

社会実験区間

（通堂橋北詰～難波西口）

（通堂橋北詰～難波西口）

自動車等の交通影響の検証

● 西側側道を右折レーンとして運用し、5車線を確保

● 側道交差点の改良

荷捌き需要の検証

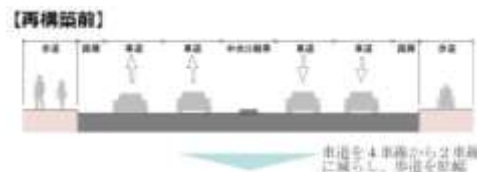
- 中央分離帯を削り欠き、荷捌きスペース（幅2.5m）を確保。

歩行者の安全性の検証

- 自転車通行空間の幅員、構造分離の必要性、路面表示（ピクトグラム、投影ライン）の有効性などを検証。

本整備（側道歩行者空間化）

【歩行者利便増進道路制度の導入】



【歩行者の利便増進を図る空間のイメージ】

- 歩道が広がった区間から、地元地域との調整を経たうえで、順次、歩行者の利便増進を図る空間の指定を検討します。

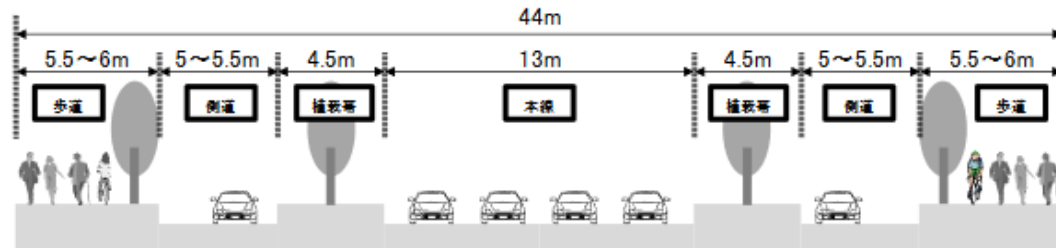
3. 御堂筋周辺地区の整備・事業の取組状況

■イチョウ並木の管理

- 「近代大阪を象徴する歴史的景観」として文化財に指定されている御堂筋のイチョウ並木（約800本）は、健全に保全し、後世に残していくため「御堂筋イチョウ保育管理計画」のもと適切な維持管理が行われている。
- 昭和56年(1981)から3か年で170本を植え替える「御堂筋のイチョウ並木の若返り作成」が展開された。
- 御堂筋が国から移管された平成24(2012)年度に、すべての樹木について専門家による樹木調査を行い、個々のイチョウの樹木カルテを作成して計画的な管理を行っている。

《御堂筋イチョウ並木の概要と断面構造》

イチョウ植栽本数（平成26年9月）
● 阪急前から梅田新道・・・ 77本
● 梅田新道から淀屋橋北詰・・・ 68本
● 淀屋橋南詰から船場中央3・・・ 348本
● 久太郎町3から新橋・・・ 210本
● 新橋から難波西口・・・ 269本
合計・・・ 972本 (内ギンナンのなる雌樹は256本)



出典：大阪市HP、
「第55回土木計画学研究発表会・講演集御堂筋の道路空間再編に向けたモデル整備について」

《民間企業の寄附・協力による御堂筋イチョウの保全・管理》

平成30年の台風21号により被災した御堂筋イチョウ並木の甚大な被害を鑑み、サントリーホールディングス株式会社よりイチョウ補植工事の寄附をいただいたり、御堂筋のイチョウ並木を健全に保存し、後世に伝えていくことを目的にガンゼ株式会社と「御堂筋におけるイチョウの供給等に関する協定書」を締結するなど、民間企業の協力のもと、イチョウを保全・管理している。



出典：ガンゼグリーン株式会社HP

3. 御堂筋周辺地区の整備・事業の取組状況

■ イチョウの生育環境改善に対する対策

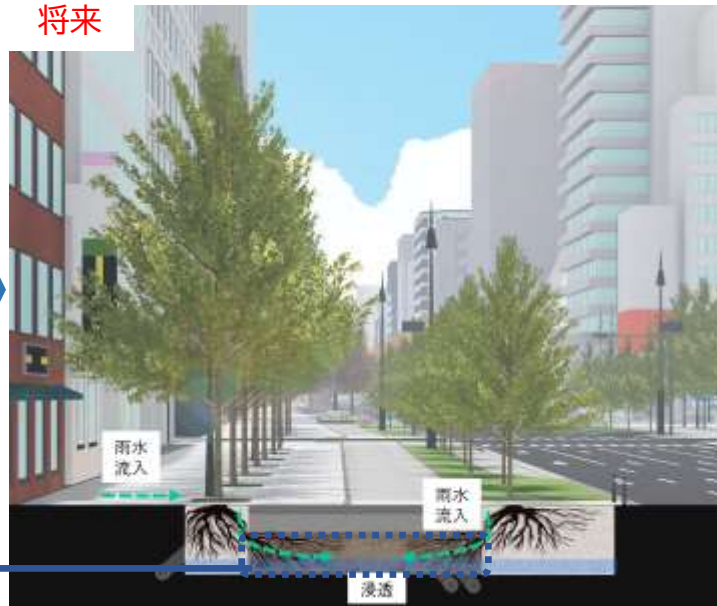
御堂筋のイチョウは歩道の平板舗装と路盤の間に根が伸長し、舗装や縁石を持ち上げ、通行上の問題となっている箇所が見られた。
⇒舗装下への根系が伸長できるような対策と、歩道部における根上がり防止策を実施。

《舗装下への根系伸長のための対策》

現況



将来



「根系誘導耐圧基盤」※の整備によりイチョウの生育に必要な根の伸長等を確保します。

※道路の路盤下の土壌改良により、根が伸びる空間を十分に確保することで、樹木を健全に生育する。

《歩道部における根上がり対策》



3. 御堂筋周辺地区の整備・事業の取組状況

■近代建築物と緑の融合 大丸心斎橋本館

- 大丸心斎橋店本館は、米国の建築家・ヴォーリスが手掛けた大正モダンの雰囲気をとどめる建築物。外装、内装を一部残しながら、86年ぶりに装いも新たに建替えられた（工期：2017年1月～2019年8月）。
- 7階には屋上庭園を設置。幹線道路に面した側には憩いの場としてテラスが設けられ、デッキ上の空間を回遊できるほか、テラスに面したレストランやカフェでは緑を眺めながら飲食ができるなど、雰囲気を楽しむ空間づくりがされている。
- 本館と北館の間を通る大宝寺通りの上空部に増築を行い、通りの外壁には意匠を凝らした壁面緑化がなされている。



7階の屋上庭園では、デッキが設けられ回遊ができるほか、レストランからは緑を眺めながら食事ができる。高木はシマトネリコ、オリーブなどを植栽。



建て替え前の意匠と屋上庭園が融合



建物の間にある大宝寺通りに設けられた壁面緑化。常緑の植栽（オオイトビカツラ等）によるストライプの植栽配置。

諸元

敷地面積	: 10,755㎡
建築面積	: 5,631㎡
緑化面積(屋上)	: 1,057㎡
緑化面積(壁面)	: 174㎡
階数	: 11階
完成時期	: 2019年

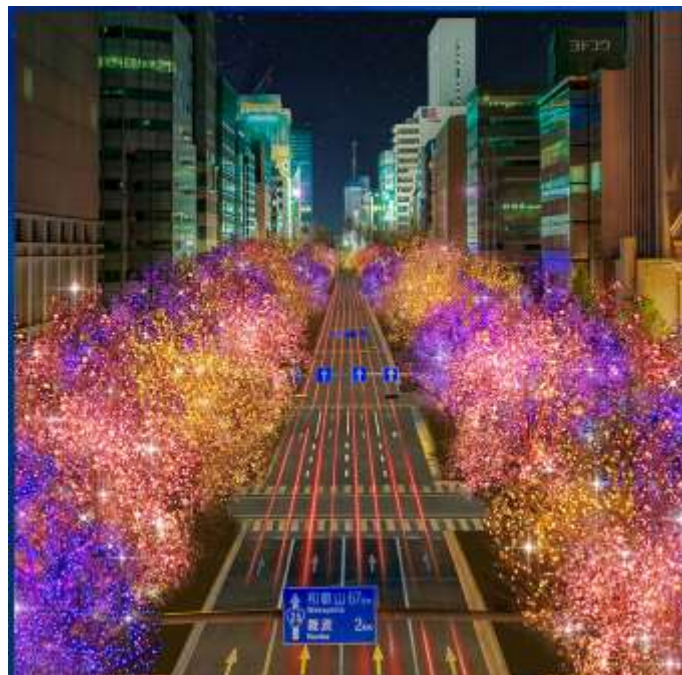
3. 御堂筋周辺地区の整備・事業の取組状況

■ 御堂筋で開催されている各種イベント

《御堂筋オータムパーティー・ウィンターパーティ》



《御堂筋イルミネーション》



《大阪マラソン》



3. 御堂筋周辺地区の整備・事業の取組状況

■まちづくり団体等の状況

「大阪エリアマネジメント活性化会議」（2017.1月発足）の会員のうち、5団体が御堂筋で活動を行っている。
うち3団体（下図※つき団体）は御堂筋における道路協力団体として指定（指定期間R2.10月～R7.10月）され、公民連携による道路管理の充実と民間主体によるまちづくり活動が進められている。

①一般社団法人 御堂筋まちづくりネットワーク※

主な活動

- 景観・デザインコントロール
（地域景観づくり協定の運用による良好なまちなみ形成など）
- にぎわい創出活動
（沿道の清掃活動、イベント開催、コンテナガーデンの管理など）
- エリア防災（都市再生安全確保計画の策定、防災訓練など）
- パークレット社会実験（にぎわいと憩いの空間のあり方などを検証）

②NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会※

主な活動

- はなプロジェクト（御堂筋新橋交差点北西角の花壇の維持管理）
- 清掃活動
- 社会実験やシンポジウムの開催

③ミナミまち育てネットワーク

主な活動

- イベント開催（ミナミ学生音楽祭）
- 清掃活動（地元町会等も一緒になった清掃活動）
- エリア防災（セミナーを通じた防災意識の向上など）

④船場倶楽部

主な活動

- 情報発信
（まちの案内板の設置、船場の歴史や暮らしを紹介するガイドブックの発行）
- イベント開催（船場フォーラム）

⑤一般社団法人 ミナミ御堂筋の会※

主な活動

- 道路の維持・管理活動（放置自転車対策、清掃、美化活動など）
- 景観形成やイベントへの協力・連携
（御堂筋イルミへの協賛など）
- 情報交換会



道路協力団体の業務

- 〔1号業務〕 道路の清掃等
- 〔2号業務〕 利便増進・収益活動
- 〔3号業務〕 情報・資料収集
- 〔4号業務〕 調査研究
- 〔5号業務〕 知識の普及啓発
- 〔6号業務〕 各号の附帯業務

4. 御堂筋周辺地区の対象範囲

■ 対象範囲の考え方

- 大阪のシンボルストリートである御堂筋及び沿道周辺地区には、前述したとおり関連計画等による景観誘導や、まちなみ形成等が図られている。
- これらの計画等の対象範囲を踏まえ、御堂筋周辺地区はおおよそ右図に示す範囲とする。

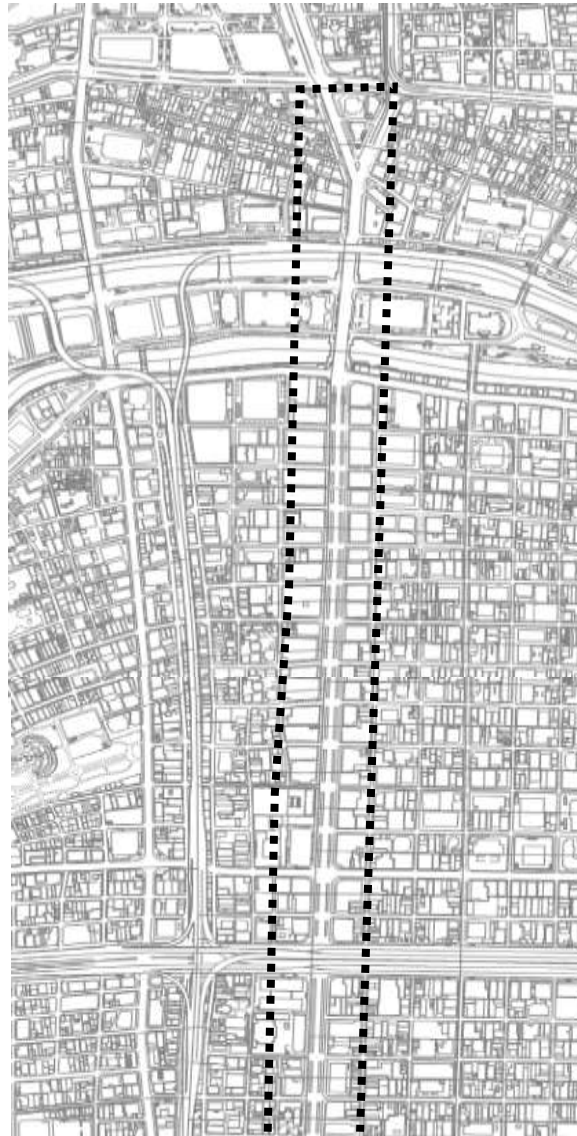


図 御堂筋周辺地区（北側区域）

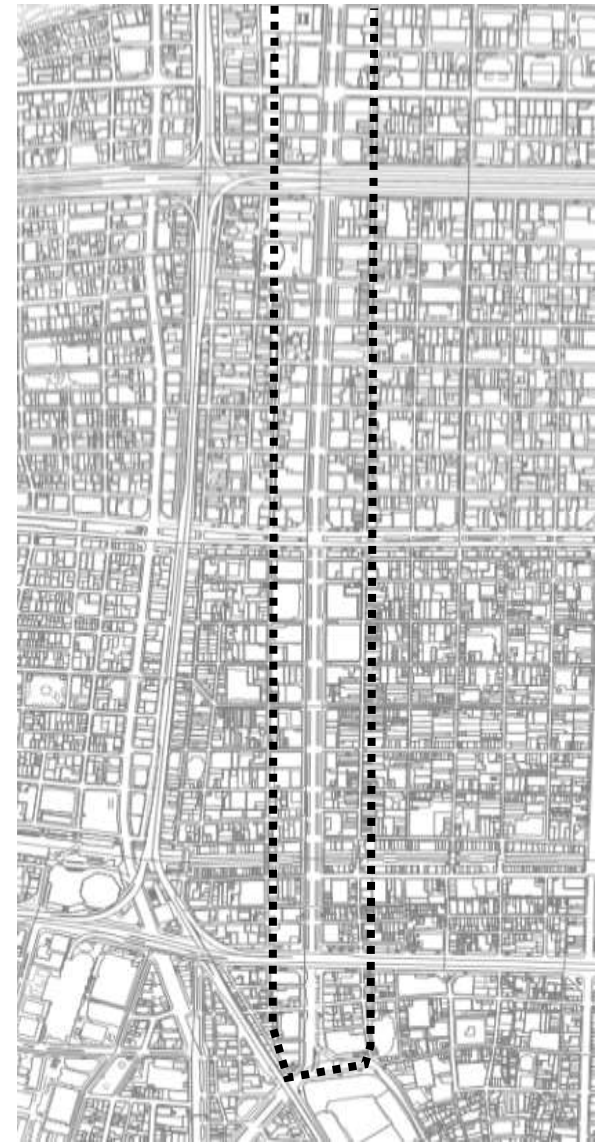


図 御堂筋周辺地区（南側区域）

5. 御堂筋周辺地区の“みどり”に関する課題

緑の基本計画で示されている5つの基本方針の観点から、以下のとおり課題整理した。

①だれもが住みたい・働きたい・訪れたいと思う“みどりの基盤”を構築する

- 御堂筋の街路景観にふさわしい、質の高いみどりが望まれる。
- 中央部では、船場建築線や地区計画等によるセットバック空間の緑化が求められる。
- 南部では、公開空地等での民有地緑化や東西街路での適正な樹木管理が求められる。

②みどりを市内及び周辺につなげていく“みどりのネットワーク”を構築する

- 快適な歩行空間を演出するみどりの創出が必要である。
- 御堂筋と交差する幹線街路の交差部や沿道でのみどりの確保、連続化が求められる。

③大阪の個性を特徴づける自然・歴史・文化の“みどりの骨格”を形成する

- 大阪市指定文化財であるイチョウ並木の適切な維持保全策を行う必要がある。

④既存ストックと民間活力を最大限に活かし、“みどりの都市魅力”を創出する

- 大阪の都市魅力を向上させるため、大規模イベント時だけでなく、日常時においてもにぎわいの創出が必要である。

⑤市民・事業者・行政が将来像を共有し、みどりのまちづくりを推進する“仕組み”を構築する

- 既存のまちづくり団体等と連携しながら、みどりのまちづくりを推進していく必要がある。

6. 御堂筋周辺地区 緑化等の方針の検討（たたき案）

－ 基本方針 －

大阪のシンボルストリートにふさわしい
風格あるみどりと豊かな街路景観の形成

個別方針①

大阪の顔にふさわしい
御堂筋のイチョウ並木の
健全な育成

- イチョウ並木の維持管理水準の向上
- イチョウ並木のボリュームと緑陰の連続性確保による
快適な歩行環境の創出

個別方針②

にぎわいがあふれ
回遊したくなる
みどりの創出

- 交通結節点におけるみどりの演出と周辺への回遊促進
- 多くの人を訪れにぎわいがあふれる歩行空間の魅力向上
- 地区周辺の近代建築と緑の融合による魅力の向上

個別方針③

官民連携による
質の高いみどりの創出

- 地域をはじめ道路協力団体やエリアマネジメント組織による
道路と沿道建物（公開空地）との一体的なみどりの管理
- 緑化活動への参加促進と情報発信